

| | | | | | |
|-------|-----------------|------|------|-----|-----|
| 教科名 | 地理歴史 | 科目名 | 歴史総合 | | |
| 開講年次 | 5年次 | 履修区分 | 必履修 | 単位数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 『詳解 歴史総合』（東京書籍） | | | | |
| その他教材 | 『新詳 歴史総合』（浜島書店） | | | | |

科目のねらい

- ① 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価規準

| | | |
|---|---------------|---|
| A | 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ・諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 |
| B | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ・考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 |
| C | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | 学習内容やねらい | 課題と評価観点 |
|----|---|---|-------------------------|
| 前期 | UNIT1 A 歴史の扉 1 歴史と私たち 2 歴史の特質と資料 B 近代化と私たち 1 近代化への問い 2 結びつく世界と日本の開国 3 国民国家と明治維新 4 近代化と現代的な諸課題 | <p>○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。</p> <p>○日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、凶像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。</p> <p>○交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読み取ったりまとめたりし、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。</p> <p>○近代化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。</p> | レポート【A、B】 振り返り【C】 |
| 後期 | UNIT2 C 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 国際秩序の変化や大衆化への問い 2 第一次世界大戦と大衆社会 3 経済危機と第二次世界大戦 4 国際秩序の変化と大衆化と現代的な諸課題 | <p>○国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲制と国民国家の形成を理解する。</p> <p>○帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。</p> <p>○国際秩序の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。</p> | プレゼンテーション【A】 振り返り【C】 |
| | UNIT3 D グローバル化と私たち 1 グローバル化への問い 2 冷戦と世界経済 3 世界秩序の変容と日本 4 現代的な諸課題の形成と展望 | <p>○冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。</p> | レポート【B】 振り返り【C】 |

| | | | |
|--|--|---|--|
| | | ○グローバル化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。 | |
|--|--|---|--|

| 教科名 | 年次 | 科目名 | 単位数 | 使用する教科書 |
|------|------|-------|------|--------------|
| 地理歴史 | 6 年次 | 世界史 A | 2 単位 | 世界史 A (東京書籍) |

科目のねらい

- ・近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。
- ・現代の諸課題を歴史的観点から考察する。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

目標および評価基準

| | | |
|---|----------|---|
| A | 関心・意欲・態度 | 歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。 |
| B | 思考・判断・表現 | 歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 |
| C | 資料活用の技能 | 歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 |
| D | 知識・理解 | 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | ねらいと評価の観点 |
|----|--|---|
| 前期 | UNIT 1 (1) 世界史へのいざない ア 自然環境と歴史 イ 日本列島の中の世界の歴史 (2) 世界の一体化と日本 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 エ アジア諸国の変貌と近代の日本 | ○自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、世界史学習の基本的技能に触れるとともに、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義を理解する。 ○近現代世界を理解するための前提として、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に世界が一体化に向かう過程を理解する。 【観点 A, B, C, D】 |
| | UNIT 2 (3) 地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和 | ○帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解し、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察する。 【観点 A, B, C, D】 |
| 後期 | UNIT 3 (3) 地球社会と日本 ウ 三つの世界と日本の動向 エ 地球社会への歩みと課題 オ 持続可能な社会への展望 (2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 イ 結びつく世界と近世の日本 | ○地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解する。人類の課題について歴史的観点から世界の動向と日本のかかわりについて考察する。 ○近現代世界を理解するための前提として、ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を理解する。 【観点 A, B, C, D】 |

| 教科名 | 年次 | 科目名 | 単位数 | 使用する教科書 |
|------|------|------|------|----------------|
| 地理歴史 | 6 年次 | 世界史B | 4 単位 | 新詳 世界史B (帝国書院) |

科目のねらい

- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する
- ・文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察する
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

目標および評価基準

| | | |
|---|----------|---|
| A | 関心・意欲・態度 | 歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。 |
| B | 思考・判断・表現 | 歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 |
| C | 資料活用の技能 | 歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 |
| D | 知識・理解 | 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | ねらいと評価の観点 |
|----|--|--|
| 前期 | Unit 1 (1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史 (2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界 イ 南アジア世界・東南アジア世界 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 | 自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義を理解する。 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握する。 【観点A, B, C, D】 |
| | Unit 2 (3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 エ 空間軸からみる諸地域世界 (4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 | ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握する。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したことを理解する。 【観点A, B, C, D】 |

| | | |
|----|---|---|
| 後期 | <p>Unit 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本 オ 資料からよみとく歴史の世界 (5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 ウ 米ソ冷戦と第三世界 エ グローバル化した世界と日本 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 | <p>主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解する。</p> <p>科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解する。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察し、21世紀の世界について展望する。</p> <p>【観点A, B, C, D】</p> |
|----|---|---|

| 教科名 | 年次 | 科目名 | 単位数 | 使用する教科書 |
|------|------|-------|------|---------------|
| 地理歴史 | 6 年次 | 日本史 A | 2 単位 | 現代からの歴史（東京書籍） |

科目のねらい

- ・我が国の近現代の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ・近現代の時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

目標および評価基準

| | | |
|---|----------|---|
| A | 関心・意欲・態度 | 歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。 |
| B | 思考・判断・表現 | 歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 |
| C | 資料活用の技能 | 歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 |
| D | 知識・理解 | 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | ねらいと評価の観点 |
|----|--|---|
| 前期 | Unit 1 1 近代日本の形成 2 東アジア世界の変動と日本 | 欧米諸国のアジア進出、明治政府の諸改革に伴う社会変容、立憲体制の成立から近代国家の形成を考察する。また条約改正、日清日露戦争前後の対外関係、政党の役割から国際関係の推移を考察する。 【観点 A, B, C, D】 |
| | Unit 2 3 二つの世界大戦と日本 | 産業革命の進行と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育・文化の普及、大衆社会の形成から近代産業の発展を理解する。また、諸国家間の対立・協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向から両大戦をめぐる国際情勢を考察する。 【観点 A, B, C, D】 |
| 後期 | Unit 3 4 第二次世界大戦後の国際社会と日本 5 現代の世界と日本 | 占領政策と諸改革、新憲法と平和条約、国際貢献から我が国の再出発及びその後の政治・対外関係の推移を考察する。戦後の経済復興、高度経済成長、生活意識と価値観の変化から日本経済の発展と国民生活の変化を考察する。 【観点 A, B, C, D】 |

| 教科名 | 年次 | 科目名 | 単位数 | 使用する教科書 |
|------|------|------|------|--------------|
| 地理歴史 | 6 年次 | 日本史B | 4 単位 | 詳説日本史（山川出版社） |

科目のねらい

- ・我が国の歴史の展開を、諸資料にもとづき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
- ・各時代の特色とその変遷の総合的考察を通じて、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
- ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

目標および評価基準

| | | |
|---|----------|---|
| A | 関心・意欲・態度 | 歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。 |
| B | 思考・判断・表現 | 歴史的・地理的事象から課題を見だし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 |
| C | 資料活用の技能 | 歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 |
| D | 知識・理解 | 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | ねらいと評価の観点 |
|----|--|--|
| 前期 | Unit 1 原始・古代 1 日本文化のあけぼの 2 律令国家の形成 3 貴族政治と国風文化 | 旧石器文化・縄文文化から弥生文化、ヤマト政権による国家の形成過程、律令国家の形成と展開、荘園・公領の動きや武士の台頭について、国際環境と関連付けて考察する。 【観点A, B, C, D】 |
| | Unit 2 中世 4 中世社会の成立 5 武家社会の成長 | 武士の土地支配と公武関係、仏教の動向などから中世国家の形成過程について考察し、東アジア世界との関係、庶民の台頭と下剋上、庶民文化の萌芽などから中世社会の展開と背景について考察する。 【観点A, B, C, D】 |
| 後期 | Unit 3 近世 6 幕藩体制の確立 7 幕藩体制の展開 8 幕藩体制の動揺 | 幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割に着目し近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察する。また、国際環境と関連させて幕藩体制の変容と近代化の基盤形成について考察する。 【観点A, B, C, D】 |
| | Unit 4 近代・現代 9 近代国家の成立 10 二つの世界大戦とアジア 11 占領下の日本 | 立憲体制と政党政治の発展や両世界大戦と日本の動向、戦後の再出発や政治・対外関係の推移について考察する。また国際的地位の確立、国民の政治参加にかかわる主題を設定し、意味・意義や関係性などの考察を踏まえて国内的・国際的な変化の重要性・相互関係を筋道立てて説明する。 【観点A, B, C, D】 |

| 教科名 | 年次 | 科目名 | 単位数 | 使用する教科書 |
|-----|------|-----|------|----------------------------------|
| 地歴 | 6 年次 | 地理A | 2 単位 | 高等学校新地理A (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院) |

科目のねらい

1. 現代世界の地理的事象を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察する。
2. 現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。
3. 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

目標および評価基準

| | | |
|---|----------|---|
| A | 関心・意欲・態度 | 地理的諸事象に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけるとともに、地理的学習の意義を積極的に見出し、そこで得た知識・技能・態度をより良い社会生活へ向けて生かすことができる。 |
| B | 思考・判断・表現 | 地理的諸事象をさまざまな角度から分析・考察・解釈し、そこから地理的概念や規則性(地理的見方・考え方)を見いだすことができる。 |
| C | 観察・実験の技能 | 現代的諸課題を世界諸地域の特色を踏まえて、その背景・要因・解決策を多方面から追究し、より良い社会のあり方を持続可能性という観点から提言することができる。 |
| D | 知識・理解 | 地理学習に必要とされる様々な資料を収集し、それらを的確に取捨選択し、調査・分析することができる。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | ねらいと評価の観点 |
|----|---|---|
| 前期 | 第1部世界の諸地域の姿と地球的課題 Unit1 「地球儀や地図からとらえる現代社会」 | 地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有用性に気付かせるとともに、地理的スキルを身に付ける。 【評価規準: ABCD レポート】 |
| | 第2部 身近な地域の課題 Unit2 「身近にあるさまざまな地図と防災」 | 生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的スキル及び地理的な見方や考え方を身につける。 【評価規準: ABCD レポート】 |
| 後期 | Unit3 「世界の諸地域の生活・文化」 | 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解させるとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察する。 【評価規準: ABCD レポート】 |
| | 第1部世界の諸地域の姿と地球的課題 Unit4 「地球的課題と私たち」 | 地球的課題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を超えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解し、それらの課題の解決には持続的な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察する。 【評価規準: ABCD レポート】 |

| 教科名 | 年次 | 科目名 | 単位数 | 使用する教科書 |
|-----|------|-----|------|-------------------------------|
| 地歴 | 6 年次 | 地理B | 4 単位 | 新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院) |

科目のねらい

1. 現代世界の地理的事象を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察する。
2. 現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。
3. 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

目標および評価基準

| | | |
|---|----------|---|
| A | 関心・意欲・態度 | 地理的諸事象に興味・関心を抱き、それらを自分自身の生活との関わりから積極的に位置づけるとともに、地理的学習の意義を積極的に見出し、そこで得た知識・技能・態度をより良い社会生活へ向けて生かすことができる。 |
| B | 思考・判断・表現 | 地理的諸事象をさまざまな角度から分析・考察・解釈し、そこから地理的概念や規則性(地理的見方・考え方)を見いだすことができる。 |
| C | 観察・実験の技能 | 現代的諸課題を世界諸地域の特色を踏まえて、その背景・要因・解決策を多方面から追究し、より良い社会のあり方を持続可能性という観点から提言することができる。 |
| D | 知識・理解 | 地理学習に必要とされる様々な資料を収集し、それらを的確に取捨選択し、調査・分析することができる。 |

年間計画

| 期 | 学習内容 | ねらいと評価の観点 |
|----|--|--|
| 前期 | 第1部 さまざまな地図と地理的技能 Unit1 「地図の活用と地域調査・地理情報の地図化」 | 地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有用性に気付かせるとともに、地理的スキルを身に付ける。 【評価規準:ABCD レポート】 |
| | 第2部 現代世界の系統地理的考察 Unit2 「自然環境、資源と産業」 | 自然地理学と経済地理学などの成果を踏まえて学習の内容と方法を工夫し、人間生活とのかかわりなどについて考察するとともに、世界の自然環境とのかかわりの深い現代世界の環境問題、資源・エネルギー、食料問題を大観する。【評価規準:ABCD レポート】 |
| 後期 | 第2部 現代世界の系統地理的考察 Unit3 「人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教」 | 人口地理学や集落地理学、文化地理学、宗教地理などの成果を踏まえて学習の内容と方法を工夫し、都市・村落とのかかわりの深い現代世界の人口、居住・都市問題、民族、領土問題を大観する。 【評価規準:ABCD レポート】 |
| | 第3部 現代世界の地誌的考察 Unit4 「地誌」 | 現代世界を構成する諸地域の地域性と諸課題を、選択した地域の学習を通して多面的・多角的に考察し、理解させることによって、現代世界の地理的認識を深め、世界の諸地域を地誌的に考察する方法を身に付ける。 【評価規準:ABCD レポート】 |